

鈴鹿の風 永戸 孝之 議員

消防分団の強化とコンプライアンス(法令遵守)

(質問) 「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の制定から2年間に実施された、団員の処遇改善、装備の財政的措置、また、現在計画されている措置について。

(答弁) 消防団は本業を持つ地域住民によって構成され、「自分の地域は自分で守る」との奉仕の精神で活動いただいている。装備に関しては、助

成や国庫補助等で、全団員にライフジャケットとケブラー手袋、全分団にジャッキ、バール等の救助資器材を装備。市単独予算で、防火衣一式を5カ年計画で更新していく。処遇面では、年報酬を一般団員は平成25年から500円増額の36,500円。費用弁償として、実災害出動1回につき400円増額の5,500円、警戒や訓練等に対しては300円増額し、1回5,000円とした。さまざまな角度から検討を加え、消防団の充実強化に努めていく。

その他の質問 ○第3セクターの経営健全化について

平明の会 森 喜代造 議員

学校教育について

(質問) ①学校のいじめの現状と防止について。
②不登校の実態と今後について。

(答弁) ①いじめのアンケート調査を年3回実施しており、いじめを受けているという回答が合計1,385件あるが、学校が認知し報告のあった140件のうち「からかいや悪口」が87件で一番多く、保護者からの相談も6件ある。また、防止対策とし

て「学校いじめ防止基本方針」を作成し、未然防止と早期発見に努めている。②不登校の児童生徒数は、平成26年度、小学校で64人、中学校で215人である。このような中、本市の教育支援センターである、けやき教室・さつき教室の通室生32人のうち20人が学校へ復帰できた。県からもスクールカウンセラーが10名派遣され、児童生徒にカウンセリングを実施し、また、本市も本年度より、中学校を対象に学識経験者を派遣し、生徒支援に関する指導・助言を進めている。

公明党 船間 涼子 議員

子育て支援について

(質問) 鈴鹿で安心して子どもを産み育てられる、より良い環境づくりのため、特に妊娠から出産、子育て期までの切れ目ない支援体制が必要である。母親が抱える育児への不安や悩みに、ワンストップで対応する鈴鹿版ネウボラや、宿泊・通院による母体ケア、育児指導を行う産後ケアの導入を提案する。また、乳幼児期にかかりやすいロタウイル

ス胃腸炎のワクチンは、接種費用が高額となり、子育て世帯に大きな負担となる。乳幼児用のロタウイルスとB型肝炎のワクチン接種費用助成をするべきと考えるがいかがか。

(答弁) 本市には、転入される若い世代の方も多く、出産前後の切れ目のない支援拡充の効果を検証・検討していきたい。ロタウイルス予防接種は、子育て世帯の負担軽減・医療費削減に有効であり、導入に向けて検討する。

その他の質問 ○選挙体制の充実について

市民クラブ 中村 浩 議員

Cバスについてのパート20

(質問) C-BUS運行における経費削減の施策について。ラッピングバスの導入について。

(答弁) C-BUS運行における経費削減について、委託先である三重交通株式会社では、乗務員の半数以上に嘱託職員を充てることでの人件費の抑制や、事業所単位で購入する安価な燃料の使用など、事業費の削減に努めている。

また、ラッピングバスの導入について、昨年度、C-BUS車両の保有者である三重交通株式会社と協議したところ、「車両の老朽化が著しいため、ラッピングを行うことで車体の塗装保護に支障をきたす恐れがある」と指摘されていることで導入は控えてきたが、老朽化車両の買い替えの際には、本市の「コミュニティバス広告掲載取扱基準」に沿って車両の前面と窓を除いた部分の広告掲載、いわゆるラッピングバスの導入について検討していく。